

生野賢司 研究員

「兵庫県の花はノジギク、樹はクスノキ、鳥はコウノトリ。では県の石は？」と聞かれて答えられる方は、かなりの石マニアかもしれません。

あまり知られていないのもそのはず、県の石が決まったのは2016年と比較的最近のことです。私たちが暮らす大地の性質や成り立ちに関心をもっていただくべく、日本地質学会が広く推薦を呼びかけて候補を集め、専門家による検討を経て選



定されました。

県の石が花や鳥と異なるのは、全都道府県ごとに三つずつある点です。県の代表なのに、なぜ三つなのか。それは、化石、鉱物、岩石の3部門あるからです。

まずは化石部門。兵庫県の化石に選ばれたのは、丹波市で発見された恐竜「タンバティタニス・アミキティアエ」（通称・丹波竜）です。タンバティタニスは、今から約1億1千万年前に生息していた植物食の恐竜



兵庫県庁2号館ロビーに展示されている「県の石」

で、首が長く全長は十数センチあったと考えられています。06年に最初の化石が発見された後、大規模な発掘が行われ、新しい種類だと判明、発見地の丹波にちなんで命名されました。次に鉱物部門。兵庫県は鉱物

資源が豊富で、かつては多くの鉱山がありました。県の鉱物には、銅を取り出す鉱石である「黄銅鉱」が選ばれました。黄銅鉱は銅、鉄、硫黄からなる金色の金属鉱物で、純粋なものには約35%の銅が含まれます。県内では、養父市の明延鉱山、朝来市の生野鉱山、川西市や猪名川町にまたがる多田鉱山などで盛んに採掘されました。

最後に岩石部門。岩石とは鉱物が集まってできた石のことです。兵庫県の岩石には「アルカリ玄武岩」が選ばれました。玄武岩はマグマや溶岩が冷えて固まった岩石で、カリウムやナト

リウムといったアルカリ金属元素に富むものをアルカリ玄武岩と呼びます。豊岡市にある玄武洞は、玄武岩が採掘された跡です。その前に立つと、柱状節理と呼ばれる規則的な割れ目でできた壮大な景観が眼前に広がり、迫力があります。実は玄武岩という岩石名は玄武洞に由来しており、兵庫県は玄武岩の聖地といえます。22年10月には、国際地質科学連合によって学術的価値の高い世界の地質遺産が選定され、最初の100カ所に玄武洞と淡路市の野島断層が選出されました。日本から選ばれたのは兵庫県内の2カ所のみで、これもまた誇らしいことです。

兵庫の「県の石」は人と自然の博物館のほか、兵庫県庁にも展示されています。お近くにお越しの際はぜひご覧ください。

ひとはく
研究員
だより

県の石

化石、鉱物、岩石の三つ選定